

秋田支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について提案を受ける①

10月28日、「秋田支社での現業機関における柔軟な働き方の実現について」の提案を受けました。内容は以下の記載の通りです。

社会の急速な変化を踏まえ、グループ経営ビジョン「変革 2027」の目指す「鉄道起点のサービスからヒト起点のサービスへの転換」に向け、系統を超えて新たな価値の創造を一層推進していく観点から、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大させていく必要がある。このため、秋田支社では、以下のとおり現業機関を新設し、これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現していく。

1. 実施内容

「横手統括センター(仮称)」「東能代統括センター(仮称)」「秋田営業統括センター(仮称)」「弘前営業統括センター(仮称)」を現業機関として新設する。

2. 実施個所 各統括センター、各営業統括センターは、以下の現業機関を融合して新設する。

	新設する現業機関	融合する現業機関
1	「横手統括センター(仮称)」	横手駅、横手運輸区
2	「秋田営業統括センター(仮称)」	秋田駅、土崎駅
3	「東能代統括センター(仮称)」	東能代駅、東能代運輸区
4	「弘前営業統括センター(仮称)」	弘前駅、五所川原駅

3. 実施期日 2021年度末ダイヤ改正(予定)

4. その他

- (1)各統括センター、各営業統括センターの円滑な運用に向けて必要な教育を実施する。
- (2)各統括センター、各営業統括センターの具体的な体制等については、別途お知らせする。

提案交渉での議論内容

【統括センター、営業統括センターの設置について】

- ・現業機関における柔軟な働き方の実現に向け、各地区の業務実態、人数規模、地域の特情を考慮して今回の統括センター、営業統括センターを新設した。
- ・横手統括センターに大曲駅を融合しないのは、距離があることと新幹線停車駅であり、地域をどう守っていくかという特情を考慮した。また、秋田営業統括センターに羽後本荘駅を融合しないのは職場の規模感を考慮したため。今回融合されなかった大曲駅、羽後本荘駅も各統括センター、営業統括センターとの兼務・連携ということは可能である。
- ・現時点で新たな庁舎や間内改良は実施期日までの期間では難しい。今後の経営状況で判断していく。
- ・今回は4つの現業機関を新設することになるが、これで終了ということではない。